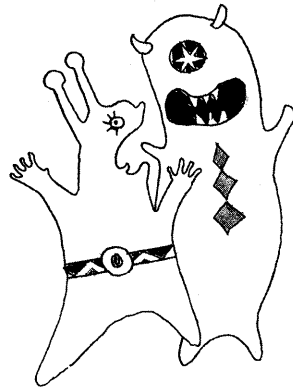


なりきる

吉岡 晶子



「おはようございます。きょうね、ぼく
バッタになるの。」長い休み明けの日のK君
の第一声でした。白い紙にバッタの絵（丸い
顔に目が二つついている）を描き、「先生、
お面にしてちょうだい。」と持って来まし
た。お面をかぶると机のまわりを椅子で囲
い、その中にもぐりこんで、「先生、ここバッ
タ君のおうちなの」と言っは、そこで絵本
を見たり、寝ころんでは「今、バッタ君寝て

るの、おやすみ」と言ったり、ままごと道具
を持ち込んで一人で料理をして「今、ごはん
食べるの」などと言いながら一日を過ごしま
した。

二日目、「おはようございます。きょう
ね、ぼくちようちよになるの。」と、昨日同
様にお面を作り、机の下にもぐりこんで一人
でちようちよになりきって遊んでいました。
のどが渇いて水を飲む時にも「ちようちよさ

ん、のど渇いちゃったの」と言って飲みます。久し振りの園生活への不安を何かになりきることで一生懸命解消しようとしているのかしら、机の下にもぐっているのもその現れかしらなどと思ってみたりしていました。

三日目はクモの巣。「ひっかけちゃった。」と、友達や私をつかんで離さないこともありました。

四日目はクワガタ。毎日生き物になりきって園庭に出たり砂遊びもしていました。私がうっかり生き物になっていることを忘れて話しかけると「違うの。今はだめ、○○なの。」と言われたり、鳴き声で返事がくることもあり、様子を見ていると不安さはあまり感じられず、毎日何になるか楽しみにしており、お面を作りかぶることで一日が始まるというK君の日課のようでした。

五日目はとんぼだったでしょうか。「先

生、ケーキ作って持って来て」と机の下から注文があり、「どんなケーキ?」「バナナケーキがいい。」とのことで作るようになりました。近くにいたA子は「黄色い紙がいいんじゃない。」N子は「ろうそくは何本あればいいの?」とK君に聞き、K君にそのつもりはなかったのかも知れませんが、いつの間にかバースデーケーキのイメージで作っていました。みんなで作って届けると大喜び。M君の家に入って一緒にバースデーパーティー。

六日目は誕生会。

七日目はカブト虫。今度はチョコレートケーキの注文があり、A子とN子は前回同様茶色のケーキを作り始めました。ろうそくも立ち、イチゴも飾ってかわいいケーキの出来上がり。二人はケーキを届け、三人で追いかけてこをしたりじゃれ合ったりする様子がとてもうれしそうでした。

おおかまきりの一日。

いもむしの一日。

ヘリコプターの一日。

登山電車の日。

ディーゼル機関車の日。

ジャンボジェット機の日。

…

一日も欠かさずお面（絵は幼いかわいい絵です）をかぶって過ごす日が続き、そのものになりきって園庭を駆け回り、遊戯室、固定遊具……どこで何をするのもそのまま。剣を作って「これ、ジャンボジェット機の剣なの。」と、飛行機だって剣を持ちます。積木の家に住んで食事もするし電話もかけます。

K君の、自分の世界に浸り、役になりきって遊んでいる姿を見ると、こちらまでうれしく楽しくなり、うらやましくもなりません。とかく先へ先へ、早く早く、高く高くと

大人になることを求められがちな世の中、K君にはゆっくりこの時期を楽しんで欲しいと思います。そして他のこども達にも。K君は四歳児年中組です。

このごろ、Kくんの遊びにS君とT君が加わっていることがあります。生まれ月も早く体も大きいS君が「待ってよー。」と追いかけていることがあり、K君は「ピーッ、シュッシュッ」「出発！」などと言いながらマイペース、我が道を行くです。

（お茶の水女子大学附属幼稚園）